

【表紙】

| | |
|------------|--------------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 2019年3月15日 |
| 【四半期会計期間】 | 第16期第1四半期（自 2018年11月1日 至 2019年1月31日） |
| 【会社名】 | 株式会社モルフォ |
| 【英訳名】 | Morpho, Inc. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 平賀 督基 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都千代田区西神田三丁目8番1号 千代田ファーストビル東館12階 |
| 【電話番号】 | 03 - 3288 - 3288（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 執行役員 管理部長 福永 寛康 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都千代田区西神田三丁目8番1号 千代田ファーストビル東館12階 |
| 【電話番号】 | 03 - 3288 - 3288（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 執行役員 管理部長 福永 寛康 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第15期 第1四半期 連結累計期間 | 第16期 第1四半期 連結累計期間 | 第15期 |
|------------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自2017年11月1日 至2018年1月31日 | 自2018年11月1日 至2019年1月31日 | 自2017年11月1日 至2018年10月31日 |
| 売上高 (千円) | 526,482 | 574,468 | 2,417,635 |
| 経常利益 (千円) | 86,506 | 72,693 | 662,152 |
| 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円) | 45,957 | 13,392 | 465,305 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (千円) | 42,956 | 4,626 | 465,333 |
| 純資産額 (千円) | 5,032,243 | 5,452,146 | 5,456,772 |
| 総資産額 (千円) | 5,287,074 | 5,740,067 | 5,847,501 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円) | 8.61 | 2.49 | 86.65 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円) | 8.56 | 2.48 | 86.20 |
| 自己資本比率 (%) | 95.2 | 94.9 | 93.3 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっています。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントを単一セグメントに変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるスマートフォン市場は、中国を筆頭とした巨大市場の成長の頭打ち感が強まる一方、通信速度の大幅な向上が想定される次世代通信方式「5G」関連サービスの商用化への期待の高まりも見られ、市場全体としては底堅い推移を見せております。また、人工知能(AI)を活用した関連産業の市場は、生産性向上や製品・サービス品質向上を目指す企業ニーズの高まりを受け、良好な状況が続いております。

このような状況下において、当社は2019年1月30日に2019年10月期から始まる3カ年の中期経営計画「Vision2021」を発表いたしました。引き続き「全てのカメラに知能を持たせる」をビジョンに掲げ、「モルフォ画像技術のデファクトスタンダード化」「成長スピード加速」を中期経営目標に設定し、「経営資源の重点配分」「グローバル化加速」「経営基盤強化」を施策の柱に据えて目標の達成に向けて取り組んでまいります。

「Vision2021」の策定に伴い、従来事業部別に分散していた営業・開発リソースを集約し、経営資源の効率的な活用と重点領域への集中的な経営資源配分を実行するために、従来の「カメラデバイス事業」と「ネットワークサービス事業」の事業部体制を改め、会社組織を変更いたしました。また、海外拠点の組織強化とパートナー企業との連携強化を進め、競合他社よりも短期間で付加価値が高い製品・サービスをグローバルに提供できるグループ体制を構築し、海外市場における更なる売上拡大を狙います。

昨年度設立いたしました中国現地法人のサービス開始、同じく昨年度に子会社化いたしましたフィンランドのデータサイエンス企業であるTop Data Science社との技術融合による製品ラインの拡充など、グループ体制強化に向けた取り組みが進捗しております。更に、米国Qualcomm社のソフトウェアアクセラレータプログラムへの参加や萩原エレクトロニクス株式会社との画像処理、画像認識AIおよびハードウェアシステム開発の領域における業務提携など、営業活動や技術優位性の高い製品開発の強化を目的としたパートナー企業との連携にも注力してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は574,468千円（前年同四半期比9.1%増）、営業利益は87,416千円（前年同四半期比13.0%減）、経常利益は72,693千円（前年同四半期比16.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は13,392千円（前年同四半期比70.9%減）となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より、当社グループの報告セグメントは単一セグメントとなることから、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は4,933,404千円となり前連結会計年度末に比べ51,299千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が95,737千円、仕掛品が5,553千円増加し、売掛金が139,357千円減少したことによるものであります。固定資産は806,662千円となり、前連結会計年度末に比べ56,135千円減少いたしました。これは主にのれんが33,847千円、繰延税金資産が20,408千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、5,740,067千円となり、前連結会計年度末に比べ107,434千円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は259,824千円となり前連結会計年度末に比べ102,898千円減少いたしました。これは主に前受金が38,922千円増加し、未払法人税等が87,784千円、未払金が31,006千円減少したことによるものであります。固定負債は28,096千円となり、前連結会計年度末に比べ90千円増加いたしました。これは、資産除去債務が90千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、287,921千円となり、前連結会計年度末に比べ102,807千円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は5,452,146千円となり前連結会計年度末に比べ4,626千円減少いたしました。これは主に利益剰余金が13,392千円増加し、為替換算調整勘定が20,808千円減少したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、85,038千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 13,800,000 |
| 計 | 13,800,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年1月31日) | 提出日現在発行数(株) (2019年3月15日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|--|-----------------------------|------------------------------------|---|
| 普通株式 | 5,382,800 | 5,382,800 | 東京証券取引所 (マザーズ) | 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、1単元の株式数は100株であります。 |
| 計 | 5,382,800 | 5,382,800 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数(株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増 減額(千円) | 資本準備金残 高(千円) |
|---------------------------|-------------------|------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 2018年11月1日～ 2019年1月31日 | - | 5,382,800 | - | 1,771,213 | - | 1,719,883 |

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2018年10月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年1月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|----------------|----------|---|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 1,700 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 5,376,500 | 53,765 | 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、1単元の株式数は100株であります。 |
| 単元未満株式 | 普通株式 4,600 | - | - |
| 発行済株式総数 | 5,382,800 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 53,765 | - |

【自己株式等】

2019年1月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|------------|-----------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| 株式会社モルフォ | 東京都千代田区西神田3-8-1 | 1,700 | - | 1,700 | 0.03 |
| 計 | - | 1,700 | - | 1,700 | 0.03 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2018年11月1日から2019年1月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2018年11月1日から2019年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2018年10月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2019年1月31日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,324,545 | 4,420,283 |
| 売掛金 | 607,691 | 468,333 |
| 仕掛品 | 1,597 | 7,150 |
| 前払費用 | 41,004 | 36,703 |
| その他 | 12,351 | 13,655 |
| 貸倒引当金 | 2,487 | 12,722 |
| 流動資産合計 | 4,984,704 | 4,933,404 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物(純額) | 43,810 | 42,290 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 70,217 | 74,649 |
| 有形固定資産合計 | 114,028 | 116,939 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 41,697 | 41,239 |
| のれん | 363,182 | 329,334 |
| その他 | 4,532 | 4,906 |
| 無形固定資産合計 | 409,412 | 375,480 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 22,469 | 22,469 |
| 敷金及び保証金 | 97,753 | 93,343 |
| 繰延税金資産 | 198,692 | 178,284 |
| その他 | 70,001 | 69,705 |
| 貸倒引当金 | 49,560 | 49,560 |
| 投資その他の資産合計 | 339,355 | 314,242 |
| 固定資産合計 | 862,797 | 806,662 |
| 資産合計 | 5,847,501 | 5,740,067 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2018年10月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2019年1月31日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 26,805 | 21,947 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 8,980 | 4,960 |
| 未払金 | 79,519 | 48,513 |
| 未払法人税等 | 104,035 | 16,251 |
| 未払費用 | 15,167 | 17,549 |
| 前受金 | 92,745 | 131,668 |
| 賞与引当金 | 13,409 | - |
| その他 | 22,058 | 18,933 |
| 流動負債合計 | 362,722 | 259,824 |
| 固定負債 | | |
| 資産除去債務 | 28,006 | 28,096 |
| 固定負債合計 | 28,006 | 28,096 |
| 負債合計 | 390,728 | 287,921 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,771,213 | 1,771,213 |
| 資本剰余金 | 1,719,883 | 1,719,883 |
| 利益剰余金 | 1,952,960 | 1,966,353 |
| 自己株式 | 10,711 | 10,711 |
| 株主資本合計 | 5,433,345 | 5,446,737 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | 21,275 | 466 |
| その他の包括利益累計額合計 | 21,275 | 466 |
| 非支配株主持分 | 2,152 | 4,941 |
| 純資産合計 | 5,456,772 | 5,452,146 |
| 負債純資産合計 | 5,847,501 | 5,740,067 |

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年1月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 526,482 | 574,468 |
| 売上原価 | 90,605 | 143,802 |
| 売上総利益 | 435,876 | 430,665 |
| 販売費及び一般管理費 | 335,348 | 343,248 |
| 営業利益 | 100,528 | 87,416 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 20 | 0 |
| その他 | - | 539 |
| 営業外収益合計 | 20 | 539 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 62 | 21 |
| 為替差損 | 13,979 | 15,241 |
| その他 | 0 | 0 |
| 営業外費用合計 | 14,042 | 15,263 |
| 経常利益 | 86,506 | 72,693 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 86,506 | 72,693 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 30,050 | 35,885 |
| 法人税等調整額 | 10,499 | 20,408 |
| 法人税等合計 | 40,549 | 56,293 |
| 四半期純利益 | 45,957 | 16,399 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | - | 3,007 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 45,957 | 13,392 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年1月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 45,957 | 16,399 |
| その他の包括利益 | | |
| 為替換算調整勘定 | 3,000 | 21,026 |
| その他の包括利益合計 | 3,000 | 21,026 |
| 四半期包括利益 | 42,956 | 4,626 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 42,956 | 7,415 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - | 2,789 |

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年1月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日) |
|---------|--|--|
| 減価償却費 | 12,958千円 | 14,817千円 |
| のれんの償却額 | - | 17,704 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2017年11月1日 至 2018年1月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本金額の著しい変動

当社は、2017年12月7日付で、みらかホールディングス株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ249,832千円増加しております。

また、新株予約権の権利行使による新株式発行により8,400株増加し、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,310千円増加しております。

それらの結果、当第1四半期連結会計期間末において資本金が1,771,213千円、資本準備金が1,719,883千円となっております。

当第1四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2017年11月1日 至 2018年1月31日)

「 当第1四半期連結累計期間(報告セグメントの変更等に関する事項)」に記載のとおりであります。

当第1四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当社グループは、「カメラデバイス事業」、「ネットワークサービス事業」の2つを報告セグメントとしておりましたが、当第1四半期連結会計期間より単一セグメントに変更しております。

当社グループでは、従来、本社に事業を展開する分野別・顧客別の事業部を設置し、各事業部は包括的な戦略を立案し事業活動を展開しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、各事業部別に分散していた営業・開発機能を集約することによって、全社の生産性を上げ、迅速かつ付加価値の高いサービスを提供することを目的に、会社組織を変更しております。

また、当社グループにおきましては、当連結会計年度より3カ年に亘る新たな中期経営計画「Vision2021」を策定し、成長戦略を改めており、重点事業領域においてオンリーワン・ナンバーワンのサプライヤーとして成長を遂げ、中期目標として掲げる「モルフォ画像技術のデファクトスタンダード化」を達成すべくグローバル化を加速しております。

これら会社組織の変更、新たな中期経営計画の策定、経営管理体制の実態等を踏まえ、報告セグメントについて再考した結果、当社グループの事業を一体として捉えることが適切であると判断したものであります。

この変更により、当社グループの報告セグメントは単一セグメントとなることから、前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間のセグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年1月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日) |
|---|--|--|
| (1) 1株当たり四半期純利益金額 | 8円61銭 | 2円49銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円) | 45,957 | 13,392 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円) | 45,957 | 13,392 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 5,337,143 | 5,381,100 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 | 8円56銭 | 2円48銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円) | - | - |
| 普通株式増加数(株) | 32,373 | 22,549 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要 | - | - |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年3月14日

株式会社 モルフォ

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高木 政秋 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大辻 隼人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社モルフォの2018年11月1日から2019年10月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2018年11月1日から2019年1月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2018年11月1日から2019年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社モルフォ及び連結子会社の2019年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。